

公表

事業所における自己評価結果（放課後等デイサービス）

事業所名		公表日				
からふるtoys		2026 年 2 月 10 日				
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	15	1		
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	10	6	療育士同士で密に情報を共有したり、助け合ったりしながら療育を提供することができた。	療育士の休職期間があり、不足していると感じる日があった。
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	11	5	学習に取り組むスペース、机上課題に取り組むスペース、運動に取り組むスペース等、室内の構造化に努めている。	2階に上がる外階段が急である。利用者の方へ常にヘルプが出せるような環境を作っていく。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	16	0		
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	15	1		
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	16	0	ケース会議や月に1度のスタッフ会議等で、情報共有を行っている。 また、目標設定や振り返り等も実施することができている。	
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	16	0		
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	16	0		
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	6	10	他事業所からの意見や、センターの方からの意見を聞きながら、療育の質の向上に努めている。	基本的には、第三者による外部評価を行っていない。
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	16	0	療育士から受講したい研修を吸い上げ、外部研修等に参加できる体制を整えている。	療育スキルに関する研修や、知識向上に関する研修を、年に6回以上実施している。
適切な支援	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	15	1	からふるHPIにて公表している。	
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	16	0		
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	16	0		
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	16	0		
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	16	0		
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	16	0	「本人支援」5領域*4つの基本活動を組み合わせ、お子様一人一人にオーダーメイドの計画を設定するように努めている。 課題を設定する中で、保護者様の意見を聞きながら、からふるでの様子、ご自宅での様子、学校での様子を鑑みて、計画を立てるようにしている。	
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	15	1	チームでの立案、個人で立案→全体へ共有等、多角的に行っている。	プログラムに悩みすぎることが無いよう、児発管、また主任から各療育士へ声掛けをさらにしていくことが必要。

援 の 提 供	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	16	0		
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	16	0		
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	14	2	シフト制のため、全員が毎日顔を合わせることができないため、情報共有シート等を活用しながら、必要に応じて適宜打ち合わせを実施している。	毎日必ず実施できていない。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	10	6	基本的には、提供記録や情報共有シートで確認や共有を行っている。 またアセスメントシートに記載をし、確認や振り返りがいつでも誰でもできるような状況になっている。	毎日必ず実施できていない。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	16	0		
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	16	0		
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ支援を行っているか。	16	0		
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	16	0	答えを簡単に教えるだけではなく、解決までの過程を大事にしながら療育を進めている。	
関 係 機 関 や 保 護 者 と の 連 携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	16	0	基本的には管理者が児童発達支援管理責任者が参画をしている。 会議前に、担当している療育士と情報のすり合わせを行い、正しい情報を提供できるように努めている。	
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	16	0		
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	16	0	送迎時に担任と話したり、学童の先生とコミュニケーションを取ったりしている。 週間計画を立て、安全にピックアップできるような工夫を行っている。	
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	16	0	未就学の頃から通所いただいている利用者が増えており、情報の共有を密に行っている関係機関が増えている。	全ての関係機関と連携を取れているわけではないため、継続して連携ができるように取り組んでいく。
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	12	4		小学校卒業、中学校卒業と同時に事業所も卒業するという方が多かったため、まだ経験がない。今後、必要になった時の為に、特に管理者は知識をつけていく必要がある。
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	15	1		
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	11	5	明確に交流の場を設けている訳ではないが、屋外活動時に地域の皆様と交流をすることがある。	
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	15	1	管理者が主に対応している。	
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	16	0		
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	16	0	希望者に対して、家族支援を実施している。 また、外部でのペアトレの機会を作成する等もしている。	希望者に対して実施しているにとどまってしまう。 今後は、利用していただいている皆様に満足していただけるような工夫をしていく必要がある。
	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	16	0		
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	16	0		
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	16	0		

保護者への説明等	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	16	0		相談に応じる、というところまでになっている現状がある。今後は、こちらからの働きかけも重要となる。
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機械を設ける等の支援をしているか。	6	10		保護者様からのアンケート結果より、現在は父母の会の開催を望まれている声が少ないため、開催はしていない。 今後、必要に応じて開催を検討していく。
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	16	0		
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	16	0	月に1度のからふる通信の発行や、Instagramでの投稿を行っている。	発行するだけで終わりではなく、皆様に確認してもらえるような工夫をしていく必要がある。
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	16	0		
	44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	16	0		
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	13	3		以前行った実績あり。 今後、より地域の皆様との交流を図るため、イベントの検討をしていく。
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	16	0	各種マニュアル研修を年に1度以上必ず実施し、全体での共有を図っている。	
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	16	0		
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	16	0		
	49	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	13	3		
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	16	0		
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	16	0		
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	16	0	毎月ヒヤリハットを振り返る時間を作り、再発防止に努めている。	
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	16	0		
	54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	16	0		

公表

保護者等からの事業所評価の集計結果（放課後等デイサービス）

事業所名 からふるtoys

公表日 2026 年 2 月 10 日

利用児童数

58名

回収数

34名

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応
環境・ 体制 整備	1	こどもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	30	3	0	1	来所人数が多い時は少し狭いのではないかと感じる時もあります。	活動内容に応じて、スペースを最大限広く利用できるよう工夫をしております。
	2	職員の配置数は適切であると思いますか。	25	3	1	5	以前に比べてスタッフが足りていないように感じる	スタッフが定着するような仕組みや環境設定をより模索し、皆様に満足いただけるような事業所を目指しております。
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	25	4	0	5		
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、こども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	30	2	0	2		
適切な 支援の 提供	5	こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	24	6	0	4	先生方がどのような専門的な研修を受け、資格等をもっているのかが分からない。そのため、専門性のある指導ができているのか分からない。	教員免許や保育士、理学療法士の資格を有しているスタッフが在籍しております。今後は、スタッフの専門性がより伝わるようなプログラムやフィードバックを実施できるよう工夫を致します。
	6	事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	28	2	0	4		
	7	こどものことを十分理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、放課後等デイサービス計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	33	1	0	0		
	8	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容からこどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	30	2	0	2	保護者の勉強不足もあり、わからないの回答が妥当だと判断した。	「本人支援」「家族支援」「移行支援」の項目は、個別支援計画に記載をさせていただいております。今後は、より保護者様が理解をしやすい内容設定や説明を心がけてまいります。
	9	放課後等デイサービス計画に沿った支援が行われていると思いますか。	32	2	0	0		
	10	事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	28	3	0	3	・週2回の利用のうち、週に1度個別療育、週に1度集団療育で利用していますが同じプログラムは無いです。 ・時と場合によって難しいと思いますが、外遊び系のプログラムをもう少し増やしてくれるといいなと思っています。	個別療育、集団療育問わず、今後も楽しく成長できるプログラムを模索してまいります。屋外での活動も、可能な範囲で取り入れてまいります。
	11	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会がありますか。	7	2	9	16	特に必要性は感じないですが、あったらあったていいのかなと思います。	地域での交流をどう深めていくか、ずっと考え模索しております。密に連携を取れるような環境を少しずつ構築していけたらと思っています。
保護者 への	12	事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	33	1	0	0		
	13	「放課後等デイサービス計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	32	0	2	0		
	14	事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	17	5	3	9	・研修会が無いと思いますが、個別で相談はしていただけます。 ・過去に利用して話を聞いてもらえる機会を散逸して設けて頂き、だいぶ精神的ストレスの軽減を感じました。今はタイミング的に行く機会が減り利用してませんが、あの時間は貴重だったなと感じます。	今後、複数人での情報交換の場や子育てに対する勉強会等を開催できたらと考えております。開催時期や時間等は、利用者の皆様へ相談をさせていただきます。
	15	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達の状況について共通理解ができていると思いますか。	32	2	0	0	・学校生活に変化があったら、共有するようにしている。	フィードバック時等に、よりコミュニケーションを取らせていただけるような工夫をしております。
	16	定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	25	5	1	3	・こちらから打診すれば対応してくれるはずですが、定期的にあるか？と聞かれるとそうでもないかなと思います。	2か月に1度程のペースとなってしまうのが現状でございます。申し訳ございません。必要に応じ、事業所側からのお声がけをより増やしていけるよう工夫をしております。
	17	事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	29	4	0	1		

説明等	18	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	9	2	10	13		
	19	子どもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、子どもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	27	2	1	4		
	20	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	30	1	0	3		
	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されていますか。	28	3	0	3		
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	33	0	0	1		
非常時等の対応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	23	3	0	8	・定期的に避難訓練をしてください。 ・避難訓練等の実施日のご案内を見落として いるようでしたら申し訳ないですが、確認で きていない。	地震想定、火災想定、洪水想定、現在左記3種類の 訓練を実施しております。また、マニュアルに関し ましても、より保護者様の目に止まるような場所へ 配置をし、情報の公開を行ってまいります。
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	26	2	0	6		
	25	事業所より、子どもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	30	1	0	3		
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	26	2	1	5	・ケガをしても報告はほほえないと思います。子供 からの報告で把握します。子供同士のトラブルで ケガをした時は、状況を教えてもらえると助かり ます。家でも、手を挙げようとする人とトラブル になった時には、その場から離れる等のアドバイ スができるので。	未報告の事案があるご指摘をいただき、反 省しております。大変申し訳ございません。 スタジオでの様子等、より密にご報告を差し 上げるよう、スタッフへ指導をしてまいりま す。
満足度	27	子どもは安心感をもって通所していますか。	34	0	0	0	毎回、楽しく、通っています。先生方へ の信頼もあります。ありがとうございます。	嬉しいお言葉ありがとうございます。今後も、お子 様そして保護者様が安心できる居場所であり続けら れるよう工夫をしてまいります。
	28	子どもは通所を楽しみにしていますか。	28	5	0	0		
	29	事業所の支援に満足していますか。	32	2	0	0	・いつもありがとうございます。 ・一時期、療育が必要な家族が、どれだけ困っているか、毎日療育 しているのか理解しているのかと思う時もありました。特に個別の 時は、どのような趣旨でその療育をしているのか、理解のないよう 保護者に伝えてもらえると思は減ると思います。成人するまでの 限られた時間までに、ある程度、社会でうまく生きていけるよう、 働きをもつが思いで、療育をお願いしています。家族へのアドバイ スもあるとありがたいです。本人もなぜ療育を受けているのか理 解した上で、毎回、本人も先生方も全力で取り組んで頂きたいで す。また、成人した後どのような制度、働く先があるのか等の情報 提供をして頂けると助かります。	集団療育、個別療育ともに、常にお子様の成長の手助けとなるよう にプログラムの構成を行っております。 当日のお子様の体調等でお子様により添う割合が大きくなることも ございます。その際は、フィードバック時にご説明をさせていただ きます。 児童から成人への移行時期の情報や知識は、まだまだ不足してしまっ ている点だと感じております。 正しい、そして為になる情報を適切に提示できるように継続した学 習や地域交流を続けてまいります。

公表

事業所における自己評価総括表（放課後等デイサービス）

○事業所名	からふるtoys			
○保護者評価実施期間	2026 年 1 月 4 日 ～ 2026 年 1 月 18 日			
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	60 名	(回答者数)	34 名
○従業者評価実施期間	2025 年 12 月 15 日 ～ 2026 年 1 月 15 日			
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	16 名	(回答者数)	16 名
○事業者向け自己評価表作成日	2026 年 2 月 1 日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	スタジオの構造化 （集団療育）	・視覚的に物のある場所を示したり、目的が分かる様に工夫をしている。 ・来所してからの流れ（①手洗い→②学習→③大部屋）に沿うような、導線ができています。	・利用人数に合わせて、どの部屋を利用するか、臨機応変に変更をする。 ・視覚的な補助を、より分かりやすい簡素な物に変更していく。
2	多様なプログラムの提供 （個別療育）	・ソーシャルスキルトレーニングや心理プログラムの実施。 ・学習支援やコミュニケーションスキルの実施。	・アセスメントツールの強化。より具体的に把握できるようなツールを検討する。 ・モートプログラムの実施。 ・スタッフの長所を活かした療育プログラムの提供。
3	保護者様、お子様のニーズに合わせて、集団・個別の療育を提供することができる	・1階2階で運営しているため、お子様に必要な支援方法を検討し、提供することができる。 ・集団と個別両方で得た情報を共有し、多角的な支援をすることが可能。 ・集団療育では、送迎を行っており、保護者様のレスパイトにも繋がっている。	・集団と個別それぞれの長所や可能な支援を明確にして、より密な連携をスタッフ同士で図る。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	スタジオでの様子が、保護者様に伝わりづらい （集団療育）	・送迎時の口頭のフィードバックだけでは、詳細に伝えることが難しい。 ・保護者様の来所が少ないため、スタジオでの様子を見る機会が少ない。	・活動の様子がイメージしやすくなるフィードバックの方法を検討する。 ・療育中の様子がよく伝わるよう、写真や動画を使用する等の工夫を検討する。
2	活動スペースの確保	・集団療育時の、運動量確保が難しい。 ・学習スペースと運動スペースが近い。	・屋外での活動量を増やす。 ・学習の時間、運動の時間とお子様に取り組むべき内容を明確化し、より効率的にスペースを確保できるような工夫をしていく。
3	送迎エリアの縮小	・1度に乗車できる人数に制限があるため、近くのエリアでの送迎に限られてしまう。 ・様々なエリアからの利用希望が届くが、送迎範囲ではないため、受け入れが難しいことが多い。	・安全性を第一に考える必要があるため、現状可能な送迎範囲で営業を行っていく。 ・送迎者を1台増やすという考えもできるが、配置問題や同乗問題をクリアすることが現状は難しい。